

市民と市長の意見交換会<佐和田地区> 質疑要旨

日時：令和4年3月12日（土）14：00～15:30 会場：防災センター 多目的ホール

参加人数：22名

1. 市政について

市長より説明	（説明内容） ○コロナ対策の現状 マスクの着用と部屋の換気の重要性について ○コロナワクチン接種の重要性について ○世界文化遺産契機としたこれまでと違う観光づくりについて ○人口減少対策 人口が減少しても経済を小さくしない仕組みづくりについて ○若手の起業家がチャレンジできる島 起業・移住支援について ○起業成功率ナンバーワンの島を目指す ○医療の現状 医師の偏在性の解消と医療と福祉の連携について ○佐渡汽船問題について ○航空路の問題について ○地域循環共生圏・ローカルSDGs未来都市への取組み 環境に優しい島、多少収入が少なくても豊かな佐渡暮らしの提案 ソーラーパネルを活用し、サービスセンター・佐渡汽船両津港を拠点に発電基地を作っていきたい エネルギーの循環により島外に流出する資金を島内で回す仕組みづくり 島外からのヒト、モノ、知恵の確保と島内経済で循環させる仕組みづくり デジタル化による市民サービスの向上、観光・移住受入環境整備、高齢者対策 等	
--------	--	--

2. 質疑

質問者 （居住地区）	意見の要旨	市長の回答	関係部署
（八幡新町）	金銀山の世界遺産登録について。 日本として政治的トラブルを抱えた案件については登録に推薦しないという方向できていたのに、佐渡金山についてはトラブルがあるのに推薦をしようとしているが何か矛盾を感じないか。	国が決めたルールの中で我々が25年間取り組んできたことを、推薦するのは政府の判断。	世界遺産推進課
（八幡）	コロナ禍の関係で説明をいただいたが、市長にお願いがある。この1～2年子どもたちが非常に元気がない。地域の人たちと子供たちが朝や夕方のあいさつをしなくなった。国や市、教育委員会の指示で先生から大声を出さないようにという指示を子どもたちが守っている。給食中や教室での大声は別だが、通学もマスクをして距離を置いて整然と通学をしているにもかかわらず地域の人にあいさつもできないようでは異常事態だ。コロナ禍を乗り越え、その後の地域活動の活性化、地域に元気をもたらす一番力の強い子供たちの元気を取り戻せるよう4月から何とかお願いしたい。	子どもたちの方針は県から降りてくるものを基軸に行っている。マスクをして声を出してはいけないというのは問題と考える。マスクをしていればあいさつは構わないと思うが、どの程度の指示が出ているのか確認をさせていただいて、どのような形が可能か教育委員会に伝えたい。	教育委員会
（八幡）	佐渡で護岸と波よけが無いのは八幡だけである。八幡には佐和田病院ややはたの里、子どもたちの施設などがある。もっと弱者に力を入れて早めに護岸の対策をしていただきたい。高野市長の時代に石田川、国府川に橋をかけ海岸道路作る話もあったが音沙汰もない。もっと弱者のことを考えて欲しい。	護岸を作るとすると県と協議をしなければならない。河原田まで来ている道路を延ばして欲しいという要望はあって県にも伝えている。一周線となるので市ではできない事業となる。護岸も含めて県に要望していきたい。	建設課

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
(長木)	・救急体制について 外海府地区の遠いところの人が救急な病気になった時おそらく相川病院に運ばれるかと思うが、そこで駄目な場合は佐和田病院、そこもだめなら佐渡病院となるのかと思うが、どの様になっているのか。 ・多く出たコロナ患者は佐渡病院に収容されているのか	・救急体制は、基本的に佐渡病院と両津病院と相川病院の3つであるが、両津病院も相川病院もかかりつけの患者以外はなかなか診られない。急な検査等が必要になってくるため、対応しきれないのでほぼ佐渡病院で診ている。 ・コロナ患者はほとんど入院していない。特にオミクロン株になってから入院していない。感染症病床の登録は4床だが、入院が必要なら入院させる。重症化してくると看護の手が多く必要になる。そうなると外来等も縮小せざるを得なくなる。ワクチン接種や軽症向けの飲み薬が承認されるらしいというニュースも聞くので、組み合わせで自宅療養し、医療崩壊を防ぐことが大事かと思う。	医療対策課
(真光寺)	・市政について、話す内容の項目だけでもよいので、あらかじめ次第に載せておいて欲しい。意見交換の際にも質問しやすい。 ・コロナ禍でも海岸のごみ拾いなどを積極的にしてくれている人がある。ゴミを減らすために、消費者や市民だけが分別しているだけではだめなので企業やお店に対してもプラスチック包装資材を減らす取り組みをして欲しいという方向性が出せないか。 ・新庁舎建設後、佐和田図書館が移転し子育て支援を含めた複合施設となるという案が出ているようだが、佐和田図書館のビジョンについて聞きたい。	・テーマに関しては、時期や地域で変わったりしているのであらかじめ提示はしていなかったが、今後の参考にさせていただく。この3月の時期であれば、施政方針や予算編成方針が出ているので参考にしたい。 ・ゴミについては、今年、政策の中で3Rをもっと佐渡でできないか、プラスチック・衣類の廃棄を減らし、再利用できないか、ゴミ焼却の仕組みを何とかならないかと議論をしたが、まだまとまっていない。低炭素問題とゴミの3R問題はセットで環境の問題だと思っている。今年の政策にできなかったのが宿題だと考えている。 ・佐和田のセンターについては、保健師や相談員を配置した図書館のある子育て支援センターというイメージを持っている。教育委員会と子ども若者課を含めて全体で議論している。金井は大人が行く図書館として専門書を増やし、佐和田は読み聞かせなどを重点にやっていく。図書館は教育の一環だと思っているので、今後しっかり議論していく予定。	環境対策課 子ども若者課 社会教育課
(緑ヶ丘)	・新航空路・航路の確保のについて。 佐渡新航空路開設促進協議会が、サポータークラブ員を募集しているが具体的な活動はないと聞く。国・県に議会や市長が要請するほうが良いだろうが、併せて住民が自ら署名活動などして活動の後押しをするのはいかなものか。	・市民の方が動いてくれるのはありがたいこと。問題は地権者交渉。地権者交渉が終わってから整備となるとかなり遅れる。前に動かしていくには市民の方が活動していただけるのがありがたい。地権者交渉を踏まえながら取り組んでいかなければと思っている。	交通政策課
(河原田本町)	・市長になろうと思った気持ちと市長になってからやろうと思ったことを聞かせて欲しい。 ・市長の考え方は実に前向きだが、職員との連携が取れていないような気がする。特に支所・センターに市長の佐渡に対する思いが伝わっていないような気がする。市民からすると努力が足りていないように思える。	・職員時代に様々な仕事をさせてもらった。佐渡にはもっともっと力があるのに、なぜできないのかと考えていたときに、お話をいただいたのでチャレンジさせてもらった。当時約束をしたことについて向かって進んでいると感じている。市長になっても、職員時代に仕事をさせてもらっている所以違和感はない。これまでの仕事にプラスアルファで政治家の方や官僚の方と知り合う機会も増え、その方々が佐渡に入ってきてもらえることがうれしいと感じている。 ・今回、部長制にするのも実はそこである。支所長を含め40人も会議に集まっても責任が細かすぎてなにも決まらない。また支所・行政サービスセンターに届いていないというのもある。ただ給料をもらって何をすべきかという認識を強く持てば市長が替わっても公務員は変わらないと思っている。研修を含め、民間からの人材や国からの派遣を入れ、ぬるま湯を変えていかなければと思っている。	総務課

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
(八幡)	・税と環境の問題について 八幡地区では、官・民・地域ボランティアが協力し清掃活動をしている。ジオパーク・ジラス・世界遺産について環境を整えて、島外からのお客様がこんなきれいな島はないと言ってもらえるよう観光地に通じる道路の環境整備をしていただきたい。当然原資がかかるが、我々旅館組合としては、ホテル税を取っていただき、それを基に歩道の整備や海岸の清掃をやっていただきたい。	世界遺産の観光地では、ホテル税や環境協力金などに取り組んでいる。佐渡の場合、世界遺産になっても大勢のお客様を受け入れるキャパシティがない。高くても泊まる、連泊ができる仕組みづくりを環境としてやっていかなければならない。観光地域づくりとして、高価格化と連泊できる、そしてそこにお試し住宅を含めて移住定住に2拠点居住まで観光の中でPRしていきたいと考えている。道路については、昨年知事に地元要望としてまず、県道をきれいにしてくれと伝えてある。今年はコミュニティ交付金を作りたいと議会に上程した。草刈りの人手を雇ったり、業者に頼むなど、一定の金額を使える仕組みである。	観光振興課
(八幡)	世界遺産のほとんどが、2年ほど過ぎると（人气が）下火になってくる。日光あたりは伸びている。常にリニューアルをしているからである。八幡地区では何ができるか検討し、休耕畑を全部花畑にしようというプロジェクトを立ち上げた。お客様に意見を伺うと昔ながらの道を歩きたいと聞いた。花を見ながら散策したいという方がたくさんいる。八幡地区の竹やぶになってしまっている道の再生を、3町歩くらいの花畑の散歩道の整備に市の力を貸してほしい。	個別でしっかりと話をしていただきたいと思う。	建設課 観光振興課 佐和田SC
	佐渡市はルールを守っていただきたい。 ・市政事務嘱託員についてだが、職務は市役所や市役所に籍を置く団体の事務作業の一部の補助となっているが、事務作業ではないうえに個人情報保護法に関わるような募金、寄付金の収集や交通災害の加入などを行政が市民に行わせているが、理解できない。 ・以前、意見交換で頂いた回答では、市が決めたことは全て事務作業だと言われた。	法的根拠があるのかどうかも含め、どうしてかという質問は、法的根拠をしらべないと答えられないので後でセンター長を通してお返事します。 ・総務課長もおりますので、持ち帰り確認する。	総務課 佐和田SC
	昨年暮れからの商品券や温泉入浴の補助、10万円ありがとうございました。この後もまた商品券を出すとのことですがどうか。	すぐには言えないが、やりたいと考えている。 この件については、国の原油対策を見ながら考えたい。ウクライナ情勢が長引くと原油価格がどのように動くかわからない。油は極端に生活の影響を及ぼす。いろいろな品物が値上がりしてしまう。皆さんに節約を含めた生活防衛・省エネも含めてもう一度見直していただきたい。島外に出るお金を少しでも減らしていきたいと思っている。国からどんな事業が出てくるかも含めて考えていきたい。	地域振興課 医療対策課
(緑ヶ丘)	自治組織設立に対する佐渡市の支援とそれに対する市長の意見を伺いたい。 地域として歴史が浅く住民自らだけで動くのはなかなか困難である。（地区住民の）背中を押す機会を佐渡市で働きかけてもらいたい。市長の思いや政策が大きく前進するためにも本庁や支所センターの職員が積極的に関わってほしい。	声は出してほしいと思うが、職員は入っていけない。集落で困難なことをやりたいということがあれば、センターで、無理なら本庁が対応する。地域で何かをやるために地域コミュニティ交付金を作っている。地域でこんなことをしたい、などの経費に使ってもらえればと思っている。今、要綱を作りこんでいる。防災でいえば地区で手をあげてくれれば、モデル地区を作りながらやろうということになっている。石田地区がどんなことをやりたいのかはわからない。わからないところへ行くのはなかなか難しい。支所・サービスセンターを話し合いの拠点にしたいというのがスタート。無理な場合は本庁に連絡を。情報を共有しながらやっていきたいと考える。	総務課 佐和田SC
(緑ヶ丘)	令和2年、3年と防災に関する講習会を開催しているが、なかなか人が集まらない。自治会組織があるから集まるのか、組織がないから集まらないのか、とにかく集まらない。市の方にお手伝い願いたい。	集まらないのに職員が行って集まるかどうかは疑問。働いている人がいるということは若い人がいるということで、裏を返せば自分は大丈夫だと思い、危機感がないから集まらない。そういう課題も含めて話し合いをしていくことが、長期的に見て組織作りにつながると思う。	防災管財課

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
(緑ヶ丘)	市立病院も縮小してきているようだが、医療機関を充実して欲しい。	市立病院を2つも持っている地域はない。医療の問題はすごく根が深い。東京でも中心部以外には医者がない。静岡県でも3500万円の給料で全国に整形外科医を募集したが来なかったそうである。また医者はどんどん専門科になっている。また田舎に来る医者がない。田舎へ来ると患者数が少ないうえに患者の種類、病気に種類が少ない。これは地域にとってはよいことだが、若い医者は経験を積むために難しい患者さんや様々な患者が必要になる。そうすると医療設備もいる。MRIを1基入れると10億円。そうなるといくつも病院を維持するのは市としては困難なことになる。県は佐渡病院を基幹病院に、周りを診療所にしようと言っているが、佐渡市は、佐渡病院と両津病院を基幹病院として、残りは診療所としてカバーしていこうという方向性で議論しているところである。できる限り頑張っていきたいとは思いますが、入院病棟の問題と経営の問題、医療の問題はしっかり個別に考えていくべきだと思う。病院は持ったが財政が全くもたなかったでは意味が無い。県と連携してしっかり取り組んでいく	医療対策課